

ずばり ここが聞きたい村政を問う!

一般質問は、会議録に基づき、質問者本人が編集し、議会広報特別委員会
で構成し、掲載しています。詳細は、会議録の閲覧ができます。

▶ 南阿蘇村議会3月定例会

一般質問の様子を動画で
ご覧いただけます。下記の
QRコードでご覧ください。

※動画をご覧になる場合、通
信料が発生する場合があります
のでWi-Fi環境での視
聴を推奨します。



ここが聞きたい ずばり村政を問う!

一般質問



坂田議員
の動画

坂田 正也 議員



移動手段としてライドシェア事業の導入を

ライドシェアの導入は

坂田議員

昨年5月政策懇談会で、村内の交通手段として、ライドシェアの導入検討をたずねた。ライドシェア事業の目的としてタクシー不足の解消と村内の交通弱者対策にも大変有効である。現在、高森町では「交通空白解消緊急対策事業」の補助金を活用し、金曜・土曜・日曜祝日に専用車4台、ドライバー7名でライドシェアを運用している。今後、高森町との事業連携を含めて協議を行い、地域交通の新たな移動手段としてライドシェア事業の導入を要望する。村として、今後の事業取り組みの詳細についてたずねる。

高森町との連携協議をすすめる

村 長

地域の公共交通の確保は、村でも最重要の課題の一つである。現在、村内では南阿蘇鉄道・公共バス・ゆるとバス・乗合タクシーなど、多様な移動手段がある。しかし、タクシー業界の運転手不足や、交通弱者対策の問題は深刻さを増しており、既存の交通網だけでは、住民の移動ニーズに十分に答えることが、むずかしくなっているのが現状である。そこで新たな移動手段としてライドシェアは、昨今、話題となっている。自治体主導型のライドシェアとは、公共交通機関だけでは移動手段が不足する地域において、自治体やNPO法人等が主体となり所定の講習を受けた地域の一般ドライバーが、自家用車を用いて有償で送迎を行う。言わば、地域の支えあいを基本とした仕組みである。料金は先行する高森町ではタクシーと同等の料金設定とすることで、地域交通として共

存共栄が図られる仕組みとなっている。

今年度、村が実施した「公共交通空白調査事業」等を通じて、村内だけで完結する交通循環に限界があることが浮き彫りとなり、自治体型ライドシェアについて現時点では慎重に見極める必要があると考えている。村としては、単独でのシステム構築ではなく、より効果的な手法を検討している。現在、高森町が実施しているライドシェア事業が、本村内にも利用可能な状況となっている。この取り組みを最大限に活用して高森町との広域的な連携協議を進めていくことが、村民の皆様の利便性向上につながる最も現実的な道筋であると判断している。

さらに広域連携による新たな移動手段の活用と合わせて、足元の対策として村の公共交通体系の抜本的な見直しにも着手する。現在、運行している乗合タクシーは、実際の利用ニーズに即して高森町への乗り入れや乗降場所の見直しを行い、より利便性の高いスマートな運行へと改善を図る。今後は高森町との広域的な連携によるライドシェアの活用と、既存の公共交通の最適化という両輪で施策を進めることで、交通弱者の方々が安心して移動できる持続可能な交通網の実現に全力を尽くしていく。



坂田議員

今後、ライドシェア事業の導入へ向けて、早急な対応を切にお願いをする。